



新春旗開き議長挨拶

日頃より、学研労協の活動に、ご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

筑波研究学園都市地区に立地する研究機関等の労働組合で構成する協議体である学研労協は、組合員の生活と権利を守り、研究条件や労働条件の改善と社会的地位の向上をめざして活動しています。

新型コロナウイルス感染症については、現在オミクロン株が世界中で流行しているなか、国内でも全国各地で感染が急激に拡大しています。他の株に比べて重症化リスクが低いと言われてはいますが、このまま感染拡大に歯止めがかからなければ医療逼迫が起きてしまいます。政府・自治体では、3回目ワクチン接種の加速化が進められていますが、医療の現場の負担が軽減できるよう、私たち一人一人ができる感染防止対策をさらに気を引き締めて徹底する必要があります。一方、長引くコロナは、雇用・労働に影響を及ぼしています。とくに非正規労働者の解雇や雇い止めは、深刻な問題となっています。雇用を守る取り組みを行っていく必要があります。コロナによって、社会・経済システムは、大きく変貌すると言われてはいます。働き方や、生活とのバランスなど、価値観も大きく変わっていくのかもしれませんが。

さて、本年の新春旗開きは、3密や対面を避けるため、リモートでの開催となりました。新型コロナウイルス感染症への対応のみならず、第5期中長期計画、運営費交付金、賃金格差や長時間労働など職場内外で様々な課題に直面しています。こういうときこそ、労働組合の存在意義と果たす役割は大きく、一致団結して立ち向かいましょう。

最後に、本年が皆様にとって健やかで実り多い年であることを祈念し、新春旗開きのあいさつといたします。